300i – 300p

Ultimate 300B amplifiers

取扱説明書

P/N: 2055023151

Tous droits réservés – © 2011

Table of content

安全のために ...3
保護 ...4
はじめに...5
パッケージ内容 ...5
アンプをセットする ...6
リモートコントロール番号...6
アンプの組み立て...7
真空管を着想する...9
保護ガラスをかぶせる ...10
接続 ...11
オーディオ入力 ...11
出力端子...12
AC 電源...12
アンプを作動させる ...13
フロントパネル ...13
リアパネル ...14
電源を入れる ...15
初めての起動時の注意事項...16
LED 輝度調整 ...17
入力セレクト ...18
リモートコントロール ...18
ロードマッチメーター ...20
モジュロメーターを読む ...21
ケースのお手入れ...21
Annex 1 - 故障かなと思ったら ...22
Annex 1 - 300p について ...23
Annex 2 - バイアスセット...24
Annex 3 - フューズ交換について ...26
Technical specifications ...27

•

ご使用の前にこの説明書をよくお読みください。

- ご不明な部分がおありでしたら、販売店、もしくは太陽インターナショナルにご連絡を。
- この説明書をお読みにならないで起こった事故につきましてはナグラ、および代理店は責任を負いかねます。
- どのような状況下でもアンプの内部を開けないでください。アンプにはご使用の方がサービスできるパーツはありません。代理店において十分な保守を行います。
- アンプを移動させる時には必ずオリジナルの梱包材をご使用のこと。梱包の不備による事故、故障、損傷にたいしてナグラ、代理店は責任を負いかねます。

安全のための重要な注意事項

・ 本機をご使用になる前にこのマニュアルをお読みください。

・定格電圧AC100Vにてご使用下さい。

・付属のAC電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。

・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。

・ AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線又は接触不良を招き、感電や火災の原因になります。

・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。

・本体を開けないようにしてください。本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。

・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。

・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。

・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、又は当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。

・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。

・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。

・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。

・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。

・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。

・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

＜保護＞

雷の発生が予想される場合や雷が発生している場合には誘導雷等に対して内部の回路のダメージを回避するため、アンプのAC電源ケーブルは抜いておいてください。他のオーディオ、ビデオ等の機器も同様にAC電源ケーブルを抜いておくことをお勧めします。
また長期間使用しないときにもAC電源ケーブルを抜いておくことをお勧めします。

★ この説明書には本機の正しいセットアップと使用法が書かれています。本機をセットアップまたは使用する前に必ず最後までお読み下さい。故障につながるような誤用の場合は、保証期間中であっても保証いたしかねますのでご注意下さい。

はじめに

ナグラ300シリーズアンプをお買い上げ頂きまして、ありがとうございます。
300シリーズはプロオーディオ、国家安全保障、軍事産業などにおいて半世紀の経験を持つクデルスキーグループのエンジニアチームによって設計、制作、製造された世界最高水準の製品です。
1951年の創業以来、ナグラは音質の絶対評価において、信頼された製品をお届けしてまいりました。
その製品に対しては数多くの賞を頂いておりますが、アカデミー賞オスカーを3回、エミー賞を1回は特筆に値するものと自負致しております。
ハイファイ製品や現場録音機は同一のエンジニアリングチームによって制作されました。ナグラの制作哲学は技術革新と最新技術を高品質製品の製造において惜しげもなく使用することでもあります。
ハイエンドオーディオ製品は確信的なデザインによって、ナグラ独自の専門知識の新たな活躍分野を目指します。
ナグラ製品をお求めくださいまして、心より深謝申し上げます。

パッケージ内容

ユーザーマニュアルのほかに次のパーツが梱包されております。

- AC電源ケーブル
- 3Pアダプタ
- 300i又は300p　本体
- トランスブロック
- VFS　非共振サポート
- RCU II リモートコントローラーおよび9V 電池（リモコン用）
- 六角ドライバー（トランスブロックの取付用）
- 六角ネジ（トランス取付用、5本）
- セラミックドライバー（バイアス調整用）
- マイクロファイバー手袋（スイスSwiss Haute Horlogerie）
- 測定

<u>注意:付属のAC 電源ケーブルは、本機 専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下い。</u>

開梱後のカートンケース、及び内部パッキン等は、後日の修理及びお引越等で輸送される場合に備えてお手元に保管されるようお勧めします。

※本製品はナグラ社、及び当社において外観、機能ともに入念な検査を重ねて出荷しておりますが、輸送中などの万一のトラブルを考え、ご使用になる前にどこかに損傷がないかを必ずご確認ください。また到着したアンプが正しく作動しないときは、すぐお買い求めの販売店までご連絡ください。

アンプをセットする

準備と設置

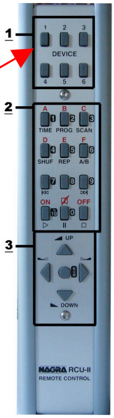
アクセサリーやアンプの扱いには同梱の手袋をご使用ください。300B真空管を素手で取り扱いますと、指紋がガラスについて、真空管の寿命に影響を及ぼします。

安定した、そして完全に水平な表面に同梱の VFS（非共振プレート）を置き、その上にアンプを設置します。真空管が熱を持ちますので、アンプの周囲は十分に空間をとって、熱が発散しやすいようにしておきます。

リモートコントロール番号と RC-5

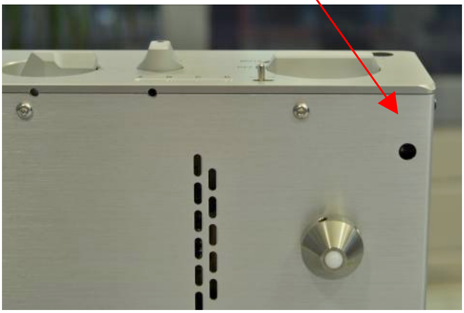
リモートコントローラーは複数のナグラオーディオ機器に使用できます。アンプ番号を変更なさりたい場合にはアンプを組み立てる前に行ってください。

.



工場出荷時には、アンプ対応番号は5です。1から6までのどの番号にでも変更可能です。ナグラの手袋をはめて、アンプの底を上にして柔らかい表面に置きます。

セレクターへのホールをカバーしているプラスティックの保護キャップをとります。

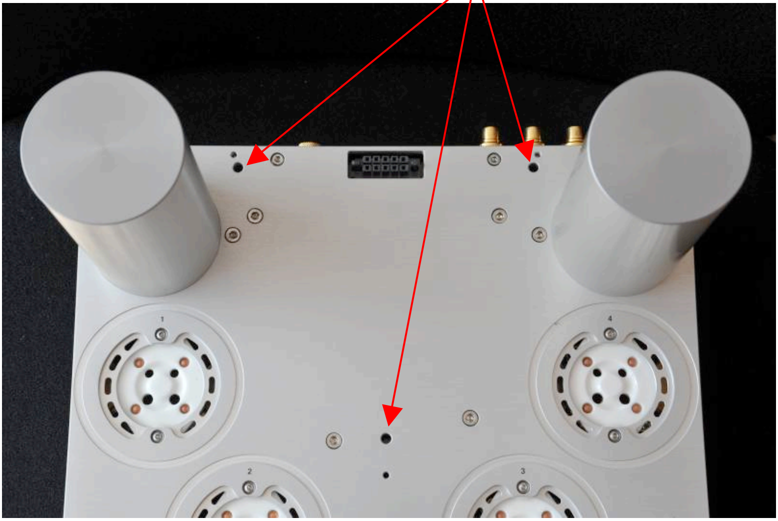


数字を変更するには付属のセラミックドライバーをご使用ください。

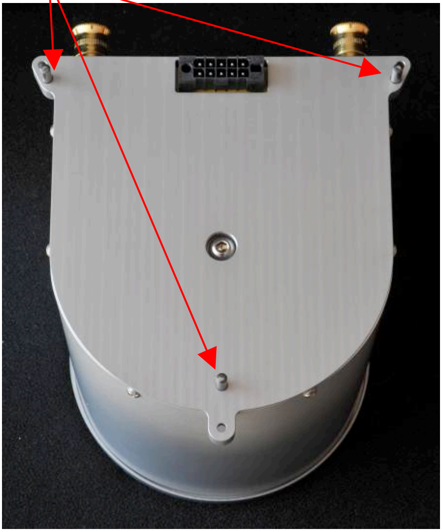
Selector position	Device	
0	Code Category Group	Philips RC-5 Preamp Audio 1 16
1 to 6	Nagra device number	

アンプの組み立て

シャーシ上部にある3つのガイドホールが出力トランスの位置ガイドとなります。



3本の足がガイドホールにはまります。

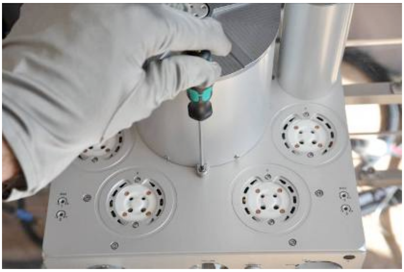


出力トランスをセットするには、アンプシャーシの上に垂直に設置します。足をガイドホールに合わせて、ゆっくりと慎重にトランスブロックがしっかりと接続されるように、押し込みます。

上部の写真によって、足がアンプシャーシ天板にはまることがお分かりいただけるでしょう。シャーシ天板に近づいたら、トランスのコネクターとかみ合わせるにはもう一段押し込む必要があります。
I

トランスブロックをネジ止めする

付属のドライバーで3カ所、固定ネジを使用して締め付けます。付属のネジは合計5個（2個はスペアです）入っています。



真空管を装着する

真空管には 1～4 まで番号がふってあります。

ナグラでは予め同梱の真空管を使用してバイアス電流を調整しております。従って、真空管番号をアンプ天板の番号と合わせてください。

※　付属の真空管は、ナグラで厳選された 300B 出力管を搭載しております。付属の真空管以外を使用しないでください。故障の原因となります。

新たに真空管をセットしたら、バイアスを調整する必要があります。（後述）

真空管の脚部は写真のように太さが異なります。ピンにはいるようにセットします。

ピンが正しい位置に来るように真空管の向きを整えて差し込みます。もし、不安でしたら、強制的に押し込まずに、もう一度はじめから行うよう、慎重に行ってください。

真空管のベースを持って写真のようにガラス部分をガイドとして位置を決め、ゆっくりと押し込みます。

アンプは差し込みの間違いがないように耐熱ガラスエポキシプレートを持っています。

真空管を取り外すときは、ベースを持って取り外します。ガラス部分を持たないように。

注意:真空管を所定の場所以外に使用するとアンプに損傷を与えることになりかねません。この場合には保証対象外となりますのでご注意を。

真空管保護をかぶせる

パイレックスガラスの真空管保護ガラスチューブが用意されています。このガラスチューブの底部は鉄のリングが組み込まれており、シャーシ上部の溝にマグネットによってセットされます

鉄製のリングをここへはめ込みます

この保護ガラスチューブは発熱した真空管に直接手を触れにくくするためのものです。お子様などが手を触れぬようにご注意ください。

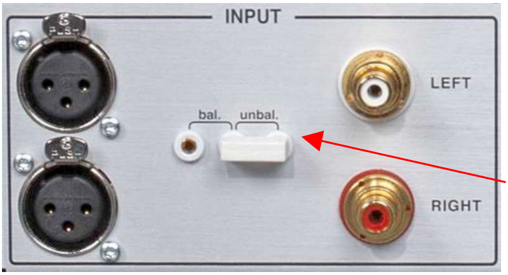
接続

アンプはシステムと接続可能の状態となりました。電源コードを接続する前にオーディオ関連機器との接続を行うようにしてください。

オーディオ入力

300i の入力は4系統です：

A　　　バランス XLR 入力
B & C　最大 2V rms　RCA シングルエンド
D　　　最大 4V rms　RCA シングルエンド.

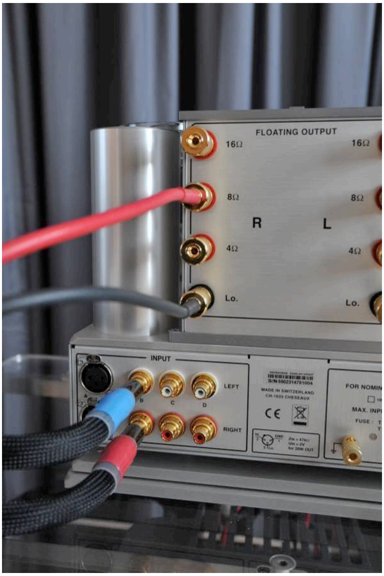


300p パワーアンプの入力は XLR バランスと RCA シングルエンドの選択が可能です。

.写真の白いジャンパーにて XLR 入力か RCA 入力を選択してください。※写真は RCA を選択した状態を示しています。

. 最大入力レベルは 2V rms　です。

出力端子



ご使用のスピーカー入力インピーダンスと完全にマッチすべく、出力トランスに異なる巻線回数の出力を設けました。スピーカーのインピーダンスによって、最適値のターミナルと接続してください。

スピーカーのインピーダンスをまず確認ください。アンプフロントのロードマッチメーターで確認も出来ます。（P19）

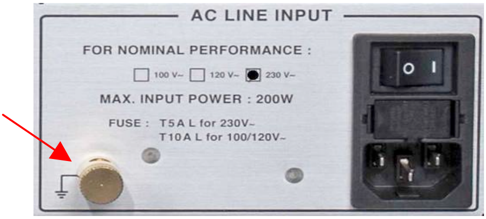
スピーカーターミナルは 4.2mm 径の裸線、4mm バナナプラグ、6.35mm スペードプラグに対応しています。

AC 電源

この段階でパワーケーブルを接続します。

Ground post

グランドポストは特別な状況の場合に使用します。



アンプを作動させる

フロントパネル

1. VFS 非共振プラットフォーム
2. LED モジュロメーター輝度調整スイッチ
3. モジュロメーター
4. モジュロメーター機能セレクター
5. ボリュームポテンショメーター
6. 左右チャンネルバランス調整
7. 入力セレクター(display on LED A to D)
8. メインセレクター(OFF, MUTE, ON)
9. リモートレシーバー

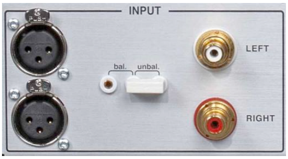
300p はプリアンプ機能意外は 300i と同様です

リアパネル

1. 入力
   A バランス XLR
   B, C RCA シングルエンド 2V rms
   D, RCA シングルエンド 4V rms

2. シリアル番号
3. グランドポスト
4. 電源電圧（この写真では 120V）
5. 電源ケーブルソケット
6. フューズコンパートメント
7. 電源スイッチ(**I**) ON, (**0**) OFF

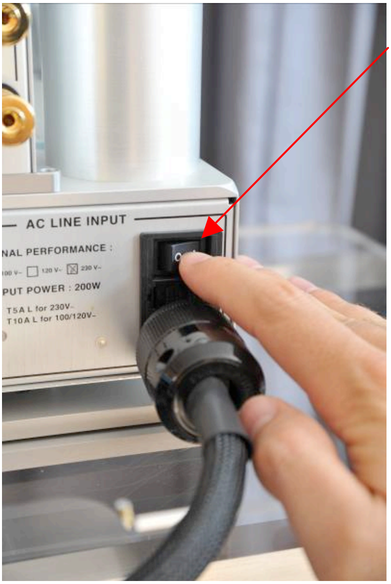
300p は入力ブロックを除いて同じです。



電源を入れる

アンプ電源をオン、オフにする方法を示します。電源を入れる前に是非ご一読ください。初めて電源を入れるときには以下に述べる注意が必要です。

電源スイッチはリアパネル写真(**7**)に示しております。. **O** の位置ではオフです。完全にオフになり、消費電力は0 Wです。**I**位置ではスタートアップ基板にパワーを引き込みます、アンプはスタンドバイとなります。この状態での消費電力は1W以下です。



アンプのパワーを入れる前にボリウムがミニマムになっていることを確認してください。

アンプを起動させるには、フロントパネル(**8**)のセレクターを使用します。

セレクターを最初はミュート**MUTE**とし、数秒そのままにしてから**ON**にしてください。.

アンプはスペックに示す作動環境に到達するまで、約15分間のウォームアップが必要です。

しかし、アンプがONとなった状態で、すぐに音楽をプレーして聴くことは出来ます。

初めての起動時の注意

新品の真空管といえど輸送中などの震動によってバイアスは変動することがあります。バイアスが大幅に変動した場合には、アンプは真空管、アンプに対する損傷を防ぐために保護モードに入ってしまいかねません。このモードについて詳しくは21頁、トラブルシュートの項をご参照ください

また、23頁、バイアス調整の項もご参照ください。

アンプに最初に電源を入れるためには:

リアパネルメインスイッチを**I**位置にします
メインセレクターレバー(**8**) を ミュート（**MUTE**） にする

アンプが正しく作動している
セレクターを**ON**に。音楽を楽しめます。

アンプが電源を切って**C** LEDが点滅LED
１個または複数個の真空管バイアスが正しくない
メインセレクター**8**) をオフ（**OFF**）
メインセレクター (**8**) を **ON**, の後モジュロメーターセレクターを1-2および3-4にして、真空管バイアスをチェックし、問題のあるバイアス設定の真空管を特定する。
バイアスポテンショメーターをグリーンの領域に持って行くようにバイアス調整します。微調整ではなく不具合状態からの脱出が目的ですので、微調整を行わずに、大きくグリーン領域に針が振れるように調整します。
4本の真空管バイアスがグリーン領域に近くなったら、15分ほどそのままにして、微調整に入ります。

バイアス調整を行うとき、アンプのON/OFFを４回以上行った場合は、スタートアップ時間が２分になります。RC LEDがこの２分間の間に点滅します。
Tこの２分間は長くお感じになるかもしれませんが、スタートアップ時コンポーネントにかかるストレスを軽減するために必要です。

バイアス調整の頻度

通常１ヶ月に一度程度バイアス調整を行ってください。アンプを１５分間ウォームアップさせ、その後にバイアスをチェック、必要なら調整をします。

バイアス調整が困難か、針がしばしば振れる場合は真空管に問題があります。その場合には、販売店にご相談ください。

アンプがパワー不足、また歪みが大きいとお感じになったときは、真空管の寿命です。真空管の交換をお勧めします。

新しい真空管をセット

リアパネルメインスイッチによってアンプの電源を切ります。新しい真空管ペアを1-2、3-4とセットします。真空管を取り扱うときにはナグラの手袋をご使用ください。バイアス調整（P23）をご参照ください。

バイアス調整のため、アンプをONにする前にバイアスポテンショメーターを中央の位置にします。
一度時計回りに回しきってから、反時計回りに戻して中央の位置を確認します。

そしてバイアス調整の手順に従います。

LED 輝度調整

メーターバックライトと LED の輝度は7段階に調整できます。

スイッチ(**2**)を下方向（くもりのマーク側）に押すと輝度が下がります。太陽の方向にスイッチを上げると輝度も上がります。

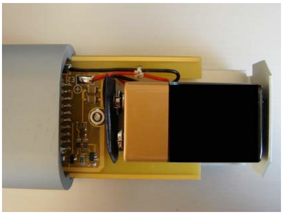
入力セレクト

入力選択はトグルスイッチ(**7**).を水平に動かして選択します。.左右に動かすことによって入力チャンネルを選択します。

右、左へとスイッチレバーを押せば入力が切り替わります。この図は **C** から **B** へと変更しています。

入力 A,B C は 2V rms に対応、D は 4.1V rms の入力まで対応します。（ハイレベルソースまで使用できます。

リモートコントロールの使用法(300i のみ)

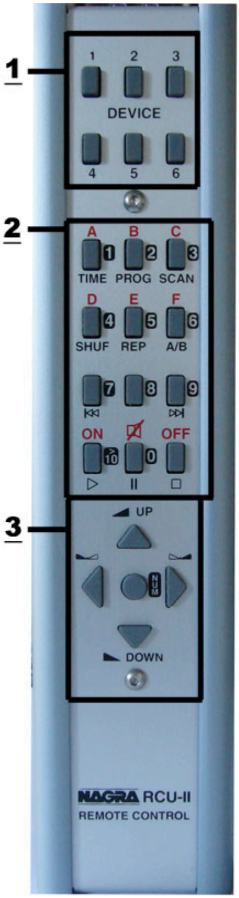


ナグラ RCU–II リモートトランスミッターには 9V バッテリーが必要です。寿命の長いアルカリ電池をご使用ください。

We recommend using alkaline batteries for extended battery life.

リモートトランスミッターを写真のように底面を上にして置きます。ネジを外し（＃3ドライバーを使用）バッテリーホルダーを引き出します。バッテリーを接続した後にまた元に戻します。

リモートトランスミッターを長時間使用しない時にはバッテリーの化学成分が漏れ兼ねませんのでバッテリーを外しておくことをお勧めします。



ブロック **1**
このトランスミッターは何機かのナグラ機器をコントロールできます。各ナグラ機器は 1 から 6 までの番号を背負っています。（1～6）

工場出荷時の番号は以下の通り:

Device	**Unit**
1	PL-L
2 & 3	DAC
4	CDC & CDP
5	300i

ブロック 2
300i は赤字で記してあるインプットを選択します。（A, B, C, D 入力選択）

このマークは入力ミュートです。フロントパネル、セレクター7 のミュート LED が点灯します。

ON 「ミュート」モードを中止し演奏状態に入ります。

OFF 300i では使用しません。

ブロック **3**

UP	ボリウムレベルアップ
DOWN	ボリウムレベルダウン

左チャンネルの出力を大きくします。

右チャンネルの出力を大きくします。

このセンターキーは 300i では使用しません。

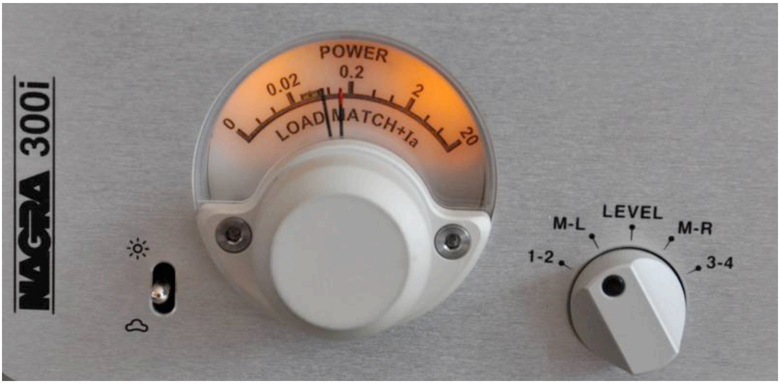
ロードマッチメーター

スピーカーとアンプとの更なる最適点を探るためには、マッチメーターの使用が便利です。

演奏中に、モジュロメーター機能セレクターを M–L(左チャンネル)、又は M–R(右チャンネル)に合わせます。

針は以下のことを示します。

指針　　　**表示**
黒　　　　アノード電流
赤　　　　アノード電圧



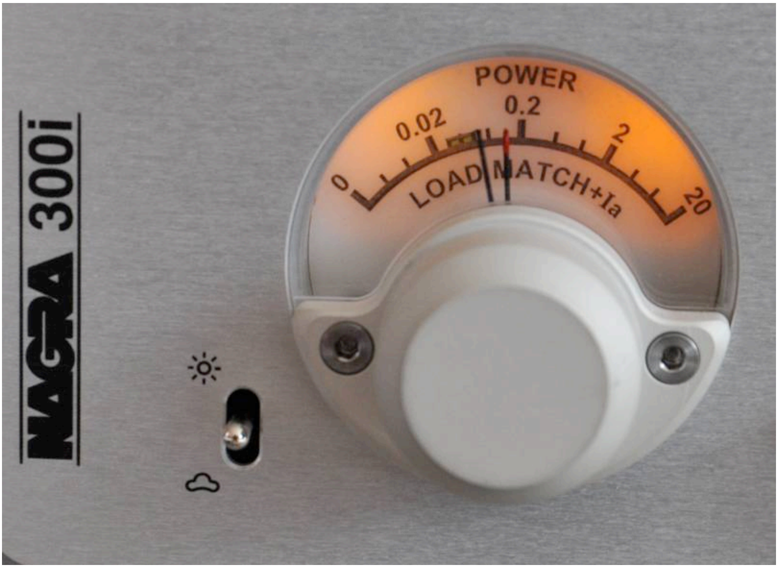
普段よくお聞きの音楽をマッチングの典型的なスタイルとしてご使用ください。それによって指針の位置を観察します。

正しいマッチング	写真のように僅かの差によって2本の針がお互いに追従します。	インピーダンス設定は最適です。al
良くないマッチング	2本の指針の動きがお互いに関連していないように見えます。特にバスドラムのようなベース音についてです。	アンプの出力インピーダンスを変えてみてください。良くなるまで、変更しておためしください。

モジュロメーターを読む

モジュロメーターセレクターの水平位置ではアンプの出力パワーを、読みやすいようにログ表示によって示します。スケールは 0 から 20W です。

0.2W といったように、パワーが非常に低いということをしばしば観察なさるでしょう。



アンプは 20W の最大出力を持っており、ハイレベルピークでも問題なく駆動します。針が連続的に 20W 位置にあるときには歪みが大きくなります。

ケースのお手入れ

若干湿り気のある、柔らかくスムーズな布によってクリーニングを行います。クリーニング用の製品は腐食させるおそれがあるのでご使用にならないように。アンプ、バッテリー、アクセサリーなどを高湿度環境、雨中に置かないでください。また、高熱(暖房機の前、直射日光など)は避けてください。

Annex 1 - 故障かな？と思ったら

問題発生の場合にはアンプは自身で保護モードに入ります。この状態で真空管はシャットダウンとなり、フロントパネルのLEDが点滅して問題を知らせます。

どんな場合でもアンプ、トランスブロックを開けないように。問題が発生の場合には販売店、もしくは代理店、太陽インターナショナルへご連絡をお願いいたします。

Problem	**300i alarm**	**Solution**
電源が入らない		AC電源ケーブルは正しく接続されていますか。 メインセレクター(**7**) がオン(**I**) になっていますか。 フューズは切れていませんか？※ヒューズが切れていた場合は接続されているケーブルはすべて外し、直ちにお買い求めの販売店、または弊社サービス課までご連絡ください。
アンプは作動するが歪みが大きい		最大出力をチェック。2V rms以上のソース出力レベルの場合には入力Dをお試しください。 4.1V rms以上の場合には、ソース機器のマニュアルを参照して出力レベルを2又は4V rmsに落としてください。 それでも納まらない場合、最後の手段は外部アッテネーターを使用してレベルを落とします。
アンプが起動しない	A LED が点滅	AC電源電圧が合っていない恐れがあります。お買い求めの販売店、または弊社サービス課までご連絡ください。
	B LED が点滅	出力トランスブロックが正しくセットされていない、又はケースが完全に閉まっていない。 リアパネル(**O**)のメインスイッチをオフに、トランスを正しい位置に載せて接続します。それでもLEDが点滅するならば、販売店にご相談ください。
アンプは起動するが15秒ほどでシャットダウン	C LED が点滅	管のどれか又は複数が不良、または正しく接続されていない、もしくははバイアスが正しく設定されていない。 バイアス設定　P23をご参照ください。
	C LED が点滅し、L又はRのマッチメーター上では赤い針がゼロを指す。	お買い求めの販売店、または弊社サービス課にご相談ください。
アンプが起動しない	RC LEDが点滅(**9**)	バイアス調整の後の短時間での連続スタートアップを４回ほど続けるとよく起きる症状です。 アンプをオンにします。アンプは2分間のウォームアップの後に起動します。その間LEDは点滅しています。

300pについてのトラブル

トラブルシュートは300ｉと同様です。 フロントパネルのLEDが警告を発するところが異なります。

赤色警告LED

Problem	300p alarm	Solution
電源が入らない		AC電源ケーブルは正しく接続されていますか。 メインセレクター(**7**) がオン(**I**) になっていますか。 フューズは切れていませんか？※ヒューズが切れていた場合は接続されているケーブルはすべて外し、直ちにお買い求めの販売店、または弊社サービス課までご連絡ください。
アンプは作動するが歪みが大きい		最大出力をチェック。2V rms以上のソース出力レベルの場合には入力Dをお試しください。 それでも納まらない場合、最後の手段は外部アッテネーターを使用してレベルを落とします。
アンプが起動しない	LEDが点灯	AC電源電圧が合っていない恐れがあります。お買い求めの販売店、または弊社サービス課までご連絡ください。
	LEDがほぼ2秒間隔でゆっくりと点滅	出力トランスブロックが正しくセットされていない、又はケースが完全に閉まっていない。 リアパネル**O**)のメインスイッチをオフに、トランスを正しい位置に載せて接続します。それでも解決せず、LEDが点滅するならば、販売店にご相談ください。
アンプは起動するが15秒ほどでシャットダウン	LEDが0.5秒間隔で点滅	真空管のどれかが不良、または正しく接続されていない、またはバイアスが正しく設定されていない。 バイアス設定 P23をご参照ください。
	LED が0.5秒間隔で点滅し、L又はRのマッチメーター上では赤い針がゼロを指す。	お買い求めの販売店、または弊社サービス課にご相談ください。
アンプが起動しない	LEDが1秒間隔で点滅	バイアス調整の後の短時間での連続スタートアップを４回ほど続けるとよく起きる症状です。 アンプをオンにします。アンプは2分間のウォームアップの後に起動します。その間LEDは点滅しています。

Annex 2 - バイアスセット

バイアス設定はグリッド電圧の変更によりアンプの作動ポイントを決定（アノード電流）します。特に、プッシュプルアンプでは2本の真空管の電流を正確に一致させることが大切です。

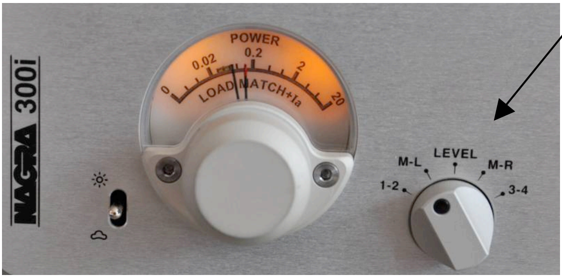
正確なモジュロメーターによって、バイアス調整はそれほど困難ではありません。

ヒートアップ中バイアスは若干変更するかもしれません。が、これは完全に正常な状態です。まず大まかな調整をします。15分後に更に微調整を行います。

バイアス調整中に、アンプは保護モードにはいることがあります。C LEDが点滅しますが、あわてる必要はありません、このような状態も起こりえます。メインセレクター(**8**)でアンプをオフにして、もう一度オンにし、微調整を続けてください。

ステップ１　リアパネルメインスイッチを（I位置）オンにします。フロントメインセレクターをミュート(MUTE)位置にします。

Step 2 モジュロメータ指針によってバイアスをチェックします



モジュロメーターセレクターを1−2、又は3−4に合わせます。

Step 3 バイアス調整

セラミックドライバー（付属）をご使用ください。電気的に絶縁というメリットがあります。

アンプ本体に装備された精密なポテンショメーターによって調整します。

真空管 1 and 2

真空管 3 and 4

Step 4 緑ゾーンに!
メーターにある緑の領域が最適点でここに指針が来るように調整します。

The needle position on this picture shows a perfect bias

赤　**指針** 真空管 2　　グリーンゾーン

黒指針：真空管 1

指針	真空管
Black	1 or 3
Red	2 or 4

この写真では赤（真空管 2）は緑領域から大きく外れ、低すぎます。指針をスタートアップから 15 秒以内に緑領域に戻さないとアンプは保護モードに入ります。アンプがシャットダウンしてしまっても再スタートを始める前にポテンショメーターを動かすことが出来ます。

ステップ **5** ポテンショメーターの方向

時計方向–指針は右に動きます

反時計方向–指針は左に動きます

Annex 3 - フューズの交換について

万一ヒューズが切れた場合には、すぐにAC電源ケーブルを抜き、お買い求めの販売店、又は当社サービス課まで修理を依頼して下さい。

ヒューズの交換はご自身では絶対に行わないようにしてください。

Technical specifications

The following table shows the general specifications for all Nagra 300i and 300p amplifiers. Your personal amplifier's measurements are provided on the accompanying "measurement protocol" document.

Type	Class A	
Tube type	300B triode	
Output power	20 W rms	
Input impedance	> 48 kOhm	
Inputs	3 RCA, 1 XLR on 300i 1 RCA ou 1 XLR on 300p	Selection by jumper on 300p
Frequency response	14 Hz – 45 kHz	+0 / -3dB
Signal-to-noise ratio	105 dB	ASA A
Total harmonic distortion (THD)	0.8 %	At full power
Crosstalk	> 70 dB	10 kHz
Inputs	2 V rms inputs A, B and C 4 V rms inputs D	300p, 2 V rms on RCA and on XLR
Outputs	Gold plated WBT	Bare wires up to 4.2 mm 4mm banana plugs 6.35mm spade lugs
Voltage range	90 - 132 V or 180 -264 V	50 – 60 Hz
Power consumption	120 W contiuous	< 1 W in stand-by
Dimensions	277x275x232 mm	10.9x10.8x9.1 inches
Net weight	14 Kg	31 lbs
VFS weight	2.5 Kg	5.5 lbs

DECLARATION DE CONFORMITE
DECLARATION OF CONFORMITY

FABRICANT: NAGRAVISION S.A. KUDELSKI GROUP, 1033 Cheseaux SUISSE
MANUFACTURER: NAGRAVISION S.A. KUDELSKI GROUP, *1033 Cheseaux, SWITZERLAND*
APPAREIL : Nagra 300i / Nagra 300p
MODEL: *Nagra 300i / Nagra 300p*
NORMES APPLICABLES :
APPLICABLE NORMS:
Champ électromagnétique rayonné EN 55022 Cl. B
Radiated electromagnetic field EN 55022 Cl. B
Perturbations conduites sur secteur EN 55022 Cl. B
Disturbance voltage on mains terminal EN 55022 Cl. B
Immunité aux champs électromagnétiques EN 61000-4-3
Immunity to electromagnetic fields EN 61000-4-3
Immunité aux décharges électrostatiques EN 61000-4-2
Immunity to electrostatic discharges EN 61000-4-2
Immunité aux transitoires électriques
rapides en salves sur câble d'alimentation EN 61000-4-4 level 2 (1000V)
Immunity to burst on mains line EN 61000-4-4 level 2 (1000V)
Immunité aux aux transitoires électriques
rapides en salves sur câbles d'entrées/sorties
signaux EN 61000-4-4 level 1 (500V)
Immunity to burst on input/output signal line EN 61000-4-4 level 1 (500V)
Immunité aux ondes de choc EN 61000-4-5 level 2 (1000V)
Immunity to surge EN 61000-4-5 level 2 (1000V)

Cheseaux 4ème trimestre 2010
Cheseaux 4rd quarter 2010

Nagra R&D